

作物名：野菜花き共通
病害虫名：コナジラミ類
オンシツコナジラミ（学名：*Trialeurodes vaporariorum*）
タバココナジラミ（学名：*Bemisia tabaci*）

1 被害の特徴と診断のポイント

- コナジラミ類の成虫・幼虫が多数寄生した場合、果実や葉に排泄物が付着し、すす病菌が繁殖して葉などが黒く汚染する。
- すす病が見られる程の多数のタバココナジラミ幼虫が寄生すると、トマト果実に着色異常果（全体が赤くならず、淡橙色、黄色等の縦縞模様等）が発生する。
- タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病（病原菌：*Tomato yellow leaf curl virus*, (TYLCV)）やキュウリ退緑黄化病及びメロン退緑黄化病（病原菌：*Cucurbit chlorotic yellows virus*, (CCYV)）を媒介する。
- オンシツコナジラミは、キュウリ黄化病及びメロン黄化病（病原菌：*Beet pseudo yellows virus*, BPYV)を媒介する。
- オンシツコナジラミ及びタバココナジラミは、トマト黄化病（病原菌：*Tomato infectious chlorosis virus*, (TICV), *Tomato chlorosis virus*, (ToCV)）を媒介する。

2 生態

- 先端部の葉群を払ってみて1～2mmの白い飛び虫がいたらコナジラミ類の可能性が高い。
- 葉の裏にすることが多く、体長1mm程度で翅は白く、体色が淡黄色で閉じた翅に隙間が見える場合はタバココナジラミ、タバココナジラミよりやや大きく羽も体色も白く、閉じた翅に隙間が見えなかったらオンシツコナジラミである。
- タバココナジラミは姿形は同じでも様々なバイオタイプがあり、タバココナジラミバイオタイプBとバイオタイプQが薬剤抵抗性を持っていることから問題となっている。
- 卵から成虫までの発育期間は、オンシツコナジラミでは24℃で約21日程度、タバココナジラミでは27℃で約20日程度である。成虫寿命は約1か月とされる。
- タバココナジラミは氷点下となる野外では越冬できないとされる。

3 防除方法

- ハウスの開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットを張り、外部からのコナジラミ類成虫の侵入を防止する。
- コナジラミ類は非常に多くの植物に寄生することから、施設内や施設周辺の除草を徹底する。
- コナジラミ類の薬剤抵抗性の発達を防止するため、RACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。成虫は葉の裏にすることが多く、幼虫や蛹も葉の裏にいたことから、薬液が葉の裏側にも十分かかるよう散布する。
- 収穫終了後は、株を根元で切断し、施設内を閉め切って蒸し込み処理を行う。トマト残渣は十分に乾燥させコナジラミ類を死滅させてから施設外へ搬出し、土中に埋めるか焼却などの適切な処理を行う。

4 出典

(1) 参考文献

- 農業総覧原色病害虫診断防除編2-①（農文協）
- 農業総覧原色病害虫防除・資材編2（農文協）
- 植物防疫 第70第6号（2016年）「トマト黄化病の発生と防除対策」

(2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影



写真1 オンシツコナジラミ（左）とタバココナジラミ（右）



写真2 すず病菌が繁殖した株

（令和8年3月作成）